

国際大会発表奨励事業 (第65回韓国小児歯科学会大会) 報告書



Korean Academy of Pediatric Dentistry
The 65th Scientific Meeting and Annual Congress

소아치과 미래를 열다

ENVISIONING the FUTURE in PEDIATRIC DENTISTRY

Seoul Coex Conference Room 3-4th Floor / April 27-28th, 2024



目次

公益社団法人日本小児歯科学会理事長	新谷 誠康	P2
公益社団法人日本小児歯科学会国際渉外委員長	仲野 和彦	P2
九州大学大学院歯学研究院健康増進学講座・口腔機能発達学分野	稲田 幸織	P3
広島大学大学院医系科学研究科小児歯科学研究室	臼田 桃子	P3
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学分野	小川 ひかり	P4
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	落合 まりん	P4
北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発育学系小児歯科学分野	金久保 千晶	P5
広島大学大学院医系科学研究科小児歯科学研究室	金木 亜美	P5
広島大学大学院医系科学研究科小児歯科学研究室	亀谷 茉莉子	P6
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	藤崎 舞香	P6
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学分野	松浦 沙久矢	P7
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	三笠 祐介	P7

第65回韓国小児歯科学会（KAPD）大会における国際大会発表奨励事業

公益社団法人日本小児歯科学会 理事長
新谷 誠康



本事業は第65回KAPD大会（2024年4月27～28日、ソウル、COEX）において、筆頭発表者として発表を行う大学院生もしくは臨床研修開始後5年目までの会員に対して大会参加に対する諸費用を支援し、国際的な場での積極的な活動を促進するために行われました。なお、本事業は日本小児歯科学会国際渉外委員会経費とASUNARO基金（佐野正之理事にご寄付いただき創設）をもとに運営されています。感謝を申し上げます。

この報告書には、支援を受けて演題発表をされた若手の先生方の報告が述べられています。「発表内容の説明」には高度な発表内容が、「大会参加に関する感想」からは発表や学会イベントに真剣に、かつ楽しんで取り組まれたことが窺い知れる内容となっています。世界的な新型コロナウイルスの感染拡大から5年が経過し、その間に制限を余儀なくされていた国際的な学会活動が以前にも増して活発になってきていることが感じ取れ、大変嬉しく思います。

第31回国際小児歯科学会（IAPD）大会は、今回本事業を推し進めていただいた仲野和彦国際渉外委員長を大会長とし、2027年に大阪の地で開催されることが決まっています。今回のような事業でみられる日本の若手小児歯科医の進むエネルギーが第31回IAPD大会の成功へとつながっていくことを願って止みません。そのためにも、支援事業は今後も継続して行っていきたいと考えております。これからも日本小児歯科学会の若手会員が国際舞台において大いに活躍することを期待しています。



未来を拓く一歩を踏み出してみてください

公益社団法人日本小児歯科学会国際渉外委員長
仲野 和彦



「国際大会発表奨励事業2024」の1つとして、2024年4月27～28日にソウルCOEXで開催の第65回韓国小児歯科学会大会に参加する若手会員の支援を行うことができました。本事業は、日本小児歯科学会および同佐野正之理事の個人的なご寄付によって創設されたASUNARO基金によって実現したものであり、この場をお借りしまして改めて感謝申し上げます。

第31回国際小児歯科学会（IAPD）大会が、2027年に大阪で開催されることが決定して約1年が経ちます。IAPD大会の日本での開催は、1991年の第13回大会（京都開催）以来であり36年ぶりになります。随分長いインターバルになってしまいましたが、ここ30年余りを振り返ってみますと、本学会会員において、海外留学をしたり国際学会大会に参加する人が減少傾向であり、まさに内向きな思考が身に染みてきているように感じます。

そこで、IAPD大会の日本開催決定を機に、これから担っていく世代の会員の方々に、グローバルな視点が経験できる機会を提供したいと考えました。本事業は、まさに未来への投資であり、本学会が世界レベルで飛躍していく未来を夢見ています。とりわけ、若い世代の方々においては、国際学会大会に参加することで、異なる視点を有する小児歯科関係者の考え方に触れたり、新たな友人関係を構築したりすることにつながり、自身の今後のキャリアアップに生きていくと思います。

国内の学会発表においても緊張がある中、国際学会で発表することはハードルの高いことかもしれませんが、誰でも最初の一歩がありますので、勇気を持って踏み出してみてくださいと思います。今回10名の若手の先生方に、韓国小児歯科学会大会に関する報告書を作成していただきました。各先生方がどのような経験をされたのかを理解していただき、ご自身もぜひ未来への扉を開ける第一歩を踏み出してみてください。

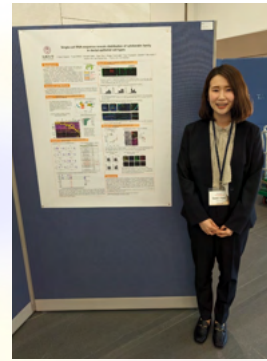
KAPD2024に参加して

九州大学大学院歯学研究院健康増進学講座・口腔機能発達学分野
稲田 幸織

発表内容の説明

私達の研究グループでは、細胞の種類によって発現が異なるサイトケラチンファミリーに着目し、歯原性上皮細胞における機能解析を進めています。

今回の発表では、シングルセルRNAシーケンスを用いて細胞のクラスターを分類し、着目したKrt17の機能解析を進め、Krt17が中間層および星状網細胞の新規マーカー遺伝子として有用であること、Krt17の遺伝子変異が先天歯と関連することを示しました。



ポスター発表の様子

大会参加に関する感想

若手会員研究発表奨励事業により、KAPDに参加する機会をいただき誠にありがとうございました。不慣れな英語でのプレゼンテーションは大変緊張しましたが、いくつかご質問をいただけて、貴重な経験になりました。

また、初めて訪れた韓国の食や文化に触れ、日本では味わうことのできないような充実した時間を過ごすことができました。とても楽しかったです。

今後も研究に励むのはもちろん、英語をもっと聞き取れたら、うまく話せたら…と強く思ったため、英語力も磨いていきたいと思えます。



景福宮の中にある慶会楼(国宝)

第65回韓国小児歯科学会大会を終えて

広島大学大学院医系科学研究科小児歯科学研究室
臼田 桃子

発表内容の説明

抗がん剤治療は小児がんの主要な治療です。しかし抗がん剤治療の晩期症状として、永久歯における先天欠如、歯根形成異常、矮小歯などの発育異常などが知られています。

当科にて長期的な口腔管理を継続している、抗がん剤治療を経験した小児患者に対して永久歯の発育異常について調査した結果を発表いたしました。



ポスターセッション後に座長の先生と

大会参加に関する感想

オランダでの国際小児歯科学会に続き2回目の国際学会での発表でしたが、英語での発表や質疑応答には慣れることはなくとても緊張しました。懇親会にも参加させて頂き、韓国の先生方や他大学の先生方と交流することができました。この貴重な経験を今後の研究や臨床に活かしていきたいと思えます。

また韓国グルメは何を食べても本当に美味しく、十分に堪能でき、充実した国際学会となりました。



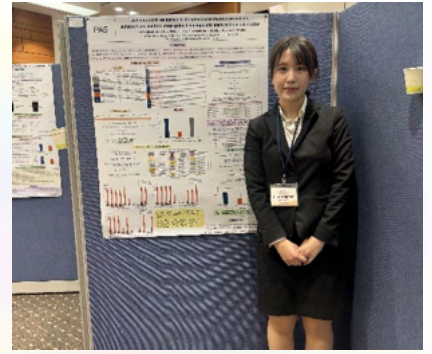
タコの踊り食いを求めて市場へ

韓国小児歯科学会に参加して

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学分野
小川 ひかり

発表内容の説明

血液腫瘍の患者さんは治療として造血幹細胞移植を受けますが、その際移植前処置として抗がん剤治療や放射線療法を行います。白血球数は生着までほぼゼロのため易感染状態となり、感染予防のため同時に抗菌薬の投与を行います。これによる造血幹細胞移植後の多剤耐性菌の増加は問題となっています。本研究では造血幹細胞移植を受ける患児から齶蝕原生細菌である *Streptococcus mutans* を分離し、施行される治療が *S. mutans* の特性に対してどのような影響を与えるのか検討を行いました。



発表ポスターの前で

大会参加に関する感想

私は海外への渡航経験がなく、今回の学会が初めての海外渡航となりました。行くまではとても緊張していましたが、韓国の先生方にはとても親切にして頂き、楽しく有意義な時間を過ごさせていただきました。韓国の料理はどれも美味しかったので、また訪れたいです。

今回の発表において、世界で違う言語を使い発表できたという経験は私にとって非常に良い経験になりました。同時に来年の国際小児歯科学会に向けてさらに研究を進め、英語力も高めたいという高いモチベーションを持つことができました。



夕食に参鶏湯を食べた後

親しみやすい国、韓国

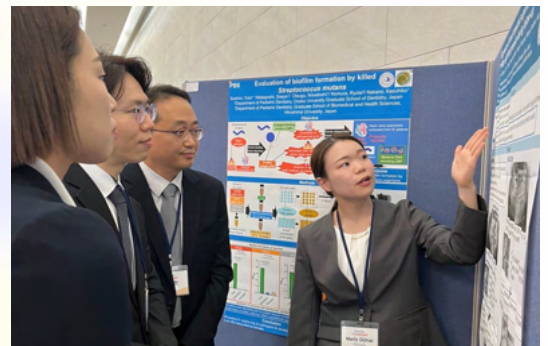
発表内容の説明

今回、過剰歯と上顎右側第一小臼歯が経過観察中に癒合した症例について発表を行いました。

本症例では、過剰歯の精査依頼を主訴に受診した8歳4か月の男児のコーンビームCT (CBCT) 画像において、上顎右側第一小臼歯と同一歯嚢内の口蓋側に過剰歯を認めました。過剰歯は萌出後に抜歯する方針とし、その後半年毎に観察を行いました。12歳0か月時に再度CBCT撮影を行ったところ、過剰歯と上顎右側第一小臼歯との癒合が認められたため、この癒合歯に対して経過観察を行いながら保存する方針としました。

今回の症例より、過剰歯の抜歯時期の判断に歯嚢の状態が影響を与える要素となることが示唆されました。

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座
落合 まりん



ポスター発表の様子

大会参加に関する感想

国際大会発表奨励事業により、KAPDに参加する機会をいただきありがとうございました。日本でも韓国料理を食べる機会は多くありますが、本場での数々の韓国料理はどれも格別なものでした。さらに、こうした食文化に触れながら他大学の先生方とも交流することができ、貴重な経験となりました。また、今回の症例発表において韓国の先生方にいただいた知見を、今後の臨床に対する考え方に活かしていきたいと思っております。



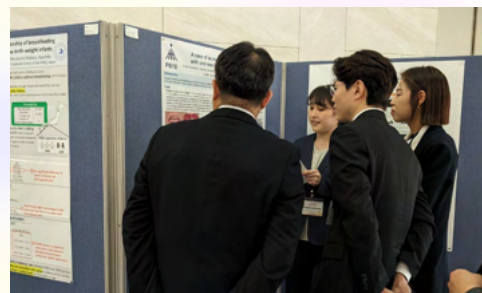
先生方とタッカンマリを囲んで

KAPD 2024 に参加して

北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発育学系小児歯科学分野
金久保 千晶

発表内容の説明

白血病は血液細胞のもととなる造血幹細胞や血液細胞になる前の細胞に異常が起こり、骨髄中にごん化した細胞が無制限に増える病気で、血液のがんと呼ばれています。白血病の初発症状として歯肉出血や歯肉腫脹が認められることがあります。これらの症状を主訴として歯科を受診した白血病患者を早期に診断することは歯科医師にとって重要です。今回は、口腔病変が初発症状であった急性骨髄性白血病 (AML) の症例について報告させていただきました。



ポスター前でのプレゼンテーション

大会参加に関する感想

国際学会への参加、ポスター前での発表と何もかも初めての経験でした。英語での発表を通じて、自分の勉強不足を痛感しましたが、とてもいい経験となりました。他大学や他国の先生方とお話しさせていただき、勉強になることがたくさんあり大変良い刺激を受けることができました。今後、語学力を高め、研究や臨床に励んでまいります。この度はこのような機会をいただき、ありがとうございました。



初めての
韓国も
楽しみました



KAPD 2024を終えて

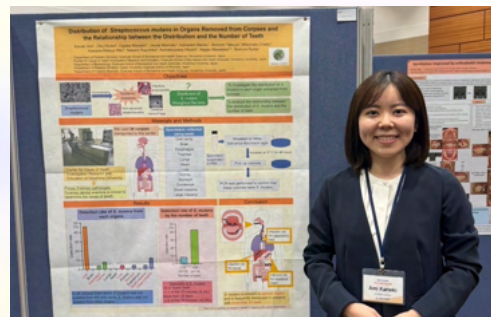
広島大学大学院医系科学研究科小児歯科学研究室
金木 亜美

発表内容の説明

Streptococcus mutans はう蝕の主要な原因細菌であり、近年、感染性心内膜炎や脳出血などの全身疾患にも関与していることが明らかになってきています。

今回、広島大学死因究明教育研究センターと協力し、全身の各臓器における *S. mutans* の分布を調査しました。

その結果、*S. mutans* は口腔・食道・気管・肝臓・胃・小腸・大腸から検出されました。また、残存歯数が20本以上の検体の方が *S. mutans* の検出率が高い結果となりました。



ポスター前で

大会参加に関する感想

今回、私は初めて国際学会に参加させていただきました。発表前はとても緊張しましたが、無事終わることができ良かったです。また、他の研究者の方々の様々な発表を聞くことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

観光では、現地の生活や食文化などに触れることができ、貴重な経験となりました。

今後、英語力を高め、より多くの研究者の方々とコミュニケーションをとることができるようになりたいと思いました。このような貴重な機会をくださりありがとうございました。



南山ソウルタワーにて

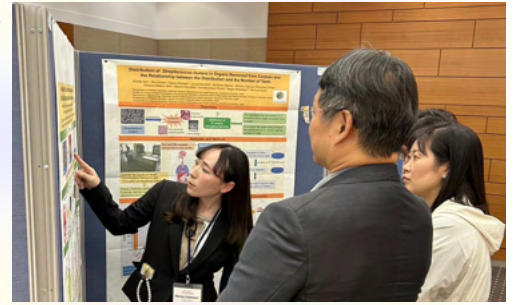
KAPDに参加して

広島大学大学院医系科学研究科小児歯科学講座
亀谷 茉莉子

発表内容の説明

今回発表した内容は、当院の小児歯科を受診された患児から採取した口腔サンプルを用いて口腔レンサ球菌の割合やう蝕の原因菌である *S. mutans* との相関について検討しました。

口腔内に *S. mutans* と *S. salivarius* 両方の菌を保有している患児はそうでない患児に比べて有意にう蝕の罹患率が高いという結果がわかりました。今後は *S. salivarius* がう蝕にどのように関連しているか、その他う蝕と関連のある菌はないかなどを調べていきたいと考えています。



発表の様子

大会参加に関する感想

韓国へは以前コロナ前に卒業旅行として訪れたことがあり2度目の渡航でした。韓国はおしゃれで最先端の街というイメージで、食べ物も美味しく、私は辛い料理が大好きなので日本ではなかなか味わえない辛さの料理を食べられて大満足でした。韓国の化粧品も気になっていたものを大量購入出来ました。

初めてソウルタワーに登ったのですが、街並みを一望できて素敵でした。日本とも距離が近く、韓国の方も日本語で話しかけてくださってとても親切にいただき、また行きたいと思いました。



ソウルタワーに登りました



韓国小児歯科学会を振り返って

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座
藤崎 舞香

発表内容の説明

咀嚼は、小児期に学習によって獲得される機能です。今回の研究発表は、小児の咀嚼能力に影響を与える因子を明らかにすることを目的としました。4歳から9歳までの小児83名とその保護者を対象とし、小児に対しては咀嚼能力を始めとする口腔機能の評価を行うとともに、保護者に対してはアンケート調査を行いました。

その結果、4歳から9歳の小児において、咀嚼能力には咬合力や舌圧が大きく影響している可能性が示唆されました。



ポスター発表の様子

大会参加に関する感想

この度、国際大会発表奨励事業により第65回韓国小児歯科学会大会(KAPD)に参加する機会を頂き、ありがとうございました。ポスター発表では、拙い英語ではありましたが、自身の研究を発表することができて光栄です。また、海外の小児歯科に携わる先生方と英語でディスカッションをするという貴重な経験をさせて頂きました。

これらの経験は、自身の研究やコミュニケーションにおける課題が見つかるとともに大きな刺激となりました。今後、さらに自身の研究や英語でのコミュニケーションに勤しみ、精進していきたいと思えます。



カンナムの街並み

第65回韓国小児歯科学会大会に参加して

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学分野

松浦 沙久矢

発表内容の説明

齲蝕の主要な病原細菌である *Streptococcus mutans* の重要な病原性のひとつは、バイオフィルムを形成する能力であり、その結果、歯の表面にプラークが形成されます。今までの研究より、バイオフィルムの形成のメカニズムにはATP結合カセット（ABC）トランスポーターが関係していると考えられていますが、このメカニズムの詳細については未だ不明です。

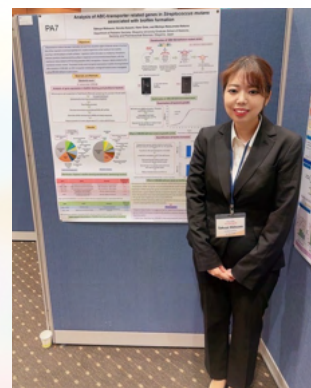
本研究では、バイオフィルム形成菌の遺伝子発現を調べ、ABC トランスポーター関連遺伝子である *SMU922* を抽出し、*SMU922* 欠失変異株を用いて生物学的機能を検討しました。

大会参加に関する感想

大学院3年生にして、今回初めて海外の学会への参加となりました。正直なところ英語に自信がなく、不安でしたがなんとか無事に発表を終え、賞も頂くことができました。唯一の心残りは、英語での質問にもっと上手く答えられれば、より有意義なディスカッションができたのではということです。今後のためにも、英語を勉強しようと心に固く誓いました。

また、韓国で久しぶりに本場の韓国料理が楽しめて、とても幸せでした。特に今回初めて食べたカンジャンケジャンは絶品だったので、ぜひもう一度食べたいです。

今回の学会参加で、自分が日々行っている研究を通して世界と繋がれることを実感することができました。今後も精一杯精進していこうと思います。



発表ポスターの前で



休憩時間にカフェで



初めての韓国での発表

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座

三笠 祐介

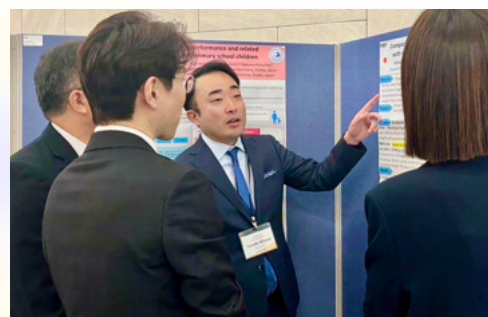
発表内容の説明

母乳や哺乳瓶による授乳は、特に頻回で夜間授乳の習慣があった場合に乳幼児期の重度う蝕と関連することがよく知られています。しかし、授乳とう蝕の関連については主に正体重出生児を対象とした調査が多く、長期間の母乳栄養が必要とされる低体重出生児における授乳とう蝕の関連について着目した分析は多くありません。

今回の発表では、大阪府の中核市での乳幼児健康診査のデータを用いて、低体重出生児において1歳6か月時の授乳が3歳6か月時のう蝕発生に与える影響を分析しました。その結果、低体重出生児においては、1歳6か月時の授乳は3歳6か月時のう蝕と関連しない可能性が示唆されました。

大会参加に関する感想

国際大会発表奨励事業により、Korean Academy of Pediatric Dentistry 2024 Conference に参加する機会をいただきありがとうございました。海外ではありますが、隣国ということもあり、親近感を感じながらも他国の先生方と研究発表を通して意見交換をすることができました。今大会で頂いた意見を活かし、研究を発展させることで、得られた結果を小児歯科臨床へと還元することができれば幸いです。



発表内容の説明を行う筆者



韓国産の鮑を使った本場の冷麺